

第8回 白梅子ども学講座

「育てることの哲学」

子ども学科 市川 奈緒子

1. 企画意図

私たちの社会では、すでに長い間子どもを取り巻くさまざまな問題(虐待、家庭の養育力の低下、学級崩壊、小1プロブレム、不登校、いじめなど)が指摘されてきている。1つ1つの問題に対しては、その原因について論議され、対策についてもさまざまに講じられている。しかし、多くのひとたちが、それぞれの問題が個々に生じているのではなく、根本に私たちの社会の問題が横たわっていると感じ、指摘をしたり、論じている。

今回の講座は、この「背景に横たわる社会全体の問題」を、「子どもを育てる(教育する)ということ」を社会全体が見失っていること」と位置づけ、私たち一人一人のおとなが「子どもを育てる(教育する)ということはどういうことなのか、何が真に大切なのか」を学び直すことを提議したものであった。

できるだけ幅の広い分野から「子どもの育ち」に関する第一線の研究者でもあり実践家でもあるかたがたに登壇していただき、それぞれの回の後半は学長汐見稔幸との対談という形で、先の問いを深めていく講座となった。

2. 各回の報告

第1回 2014年10月11日(土)

13時半～16時半

「教育は誰のため・何のため～オランダから日本の教育を見直す」

講師：リヒテルズ直子氏(オランダ教育・社会研究家 日本イエナプラン教育協会代表)

オランダは、言うまでもなくユニセフの調査に

よる「子どもの幸福度ナンバー1」の国である。

実際にご自分のお子さんたちをオランダで育てられたリヒテルズ先生より、オランダの教育を、その理念、政策から実態まで丁寧にご紹介いただいた。その上で、日本の制度や実態とを比較検討していきながら、鋭い提言をいただいた。そもそも「教育は誰のため・何のため?」という、先生が掲げてくださったこのテーマは、日本社会の中でどのように語られ、共通理解されてきたでしょうかと考えたとき、日本社会の脆弱さが簡単に浮き彫りにされてしまう。汐見学長との対談の最後に、「自分たちには何ができるのか」といった疑問に対して、リヒテルズ先生が「ひとりひとりが深く考え、やるべきことをやっていくことの大切さ」を語ってくださったことが、印象にも残り、また救いにもなったように思われた。

第2回 2014年12月13日(土)

13時半～16時半

「被虐待児と家族の支援からみえてくる、子育てで大切にしたいこと」

講師：増沢高氏(子どもの虹情報研修センター)

講師の増沢先生の所属する子どもの虹情報研修センターは、虐待対応に関する研修機能とともに、情報提供や相談、研究機能を持つ日本でもっとも大きく機能的な虐待対応機関である。増沢先生には、事例を踏まえつつ、虐待の起こってくる要因、それが子どもに及ぼす影響、そうした子どもたちへの支援とは子どもの過去・現在・未来の捉えなおしと育ち直しであるということを論じていただいた。その上で、家族として、および地域として「子育ての上で大切にしたいこと」をまと

めていただいた。「信頼できる地域の大人になること」というテーマが、だれにでもできること、かつすべきこととして意識された講義だった。

第3回 2015年1月10日(土)

13時半～16時半

「自分を育てる子どもたち」～モンテッソーリ教育に学ぶ人間発達の法則～

講師：深津高子氏（国際モンテッソーリ協会（AMI）公認教師 一般社団法人 AMI 友の会 NIPPON 副代表）

深津先生からはモンテッソーリ教育の理念と実践について、子どもたちの生き生きとした様子をビデオで見せていただきながら丁寧に論じていただいた。テーマとしてもっとも重要だったのは、タイトルにもある「子どもは自分を自分で育てる力を持っている」という、子ども（人間発達）に対する深い信頼感である。ひとは、まわりから信頼されて初めて自身を信頼できるのだということを学んだ講義であった。また、モンテッソーリ教育は平和教育であるということも改めて学ぶことができたように思われる。「『王様は裸だ』と言える子どもに」と深津先生は指摘されていたが、内なる平和を築けた子どもが、自己信頼に基づいて自分の周りの平和を守る力を育てていくことが平和教育である。現代社会に生きる子どもに欠けているものは何か、おとなとしてすべきことは何かに直面させられた講義であった。

3. 講座を通して

昨年度の子ども学講座のまとめで、「この社会全体をわれわれはどのように形作っていくのかという問いかけになった」と書いたが、今回の講座はまさにそうした問いに深く切り込むものになった。「子育てでもっとも重要なものは何か」「真によい教育とは何か」といった問いかけに対して、子ども学を掲げる白梅学園大学として今後も世の中に発信していく責任があることを再認識させられた講座であったと思われる。